

## H29.2.18《近畿はひとつ》 目の前の子どもの事実をもとに、学び合いました。

場所：神戸大学附属幼稚園（9:00～16:00）

講師：北野 幸子先生（神戸大学大学院准教授）

演題：「子どもの事実から、子どもと創る保育実践」～幼児期におけるカリキュラム・マネジメント～

土曜日の早朝から、近畿各府県の先生方が集いました。園庭や保育室、遊戯室で繰り広げられる遊びを参観し、「学びのカード」に、子どもたちの遊びの様子（事実）を記入していきます。

子ども同士のかかわりや、教師とのかかわり、子どもの表情・会話・しぐさ・目の動きなど、つぶさに観察しながらカードに記入していきます。担任や園の職員としては、ゆっくり見ることができなくても、観察者としてなら見えることも多いなと感じた先生方も多かったようです。



昼食後は、同じ遊びを見ていた先生たちが集まって、子どもの事実に基づく「10の視点」と「40の下位項目」の観点で、幼児の学びを分析していきます。遊びを通して、子どもは「何を学んだのか」また、その「学びの意味」は何なのか、「学びの要因」は何だったのか。

同じ事実を見ていても、その読み取りは、少しずつ違っていたり、同じように捉えていたり・・・。

多面的に意見交換をすることで、自分の視野が広がり、捉え方も豊かになっていきました。

また、北野先生は講話の中で、世界の乳幼児教育改革と日本のこれからという大きな視野で、(1)質の保障 (2)保育者の高度専門職化 (3)管轄の一体化・カリキュラムの一元化の重要性をお話してくださいました。「子ども中心」の観点を失わず、目の前の子どもの事実から、子どもの学びを振り返り、可視化していく大切さも語ってくださいました。

教職員一人一人が教育課程の適正化を目指すという基本的な姿勢をもち、カリキュラムマネジメントにチームでかかわっていく大切さも実感しました。

一日を通して、目の前の子どもの事実を見る視点と、世界的な視野に立って保育を見つめる視点の両方の大切さを感じました。写真・映像・日々の記録・ドキュメンテーション・ポートフォリオなど、様々な工夫によって、見えにくい幼児期の育ちや学びを可視化し、小学校の先生や保護者と共に乳幼児期の心情・意欲・態度の育ちの大切さを共有していきたいと思いました。

